

木知原の今昔!

16号: 5・6・23

地蔵祭り



こちばらのお地蔵さんのお祭りは、地蔵尊が祀られた江戸時代(1745年)から今日まで約280年間も続いており木知原の宝物と思います。

□ 祭りのスタイルは暮らしや地蔵信仰の変化と共に様変わりしてきたと思われるが、現在の様に笛や太鼓のお囃子が入った祭りは明治時代末期になってからである。(もちつり唄もこの頃から)

☞ 祭りは旧暦では、8月24日の盆近くに行われていたので「地蔵盆」と呼んでいたが、明治5年の新暦からは7月24日に変更され名称も「地蔵祭り・ちょうちん祭り」と呼ぶようになった。

祭りが24日!!

と決まっているのは地蔵尊の縁日が24日だからである

□ 縁日とは“地蔵仏が庶民の近くまで来られていつも以上に優しく願いを聞いて下さる日”と言ったらよいでしょう。

☞ 縁日が24日に決められた定説はないが、一説には地蔵菩薩像の「眉毛の形が月齢の24夜の月」に一番似ているからとある。

♥ きつと月に関わる年中行事の多かった宮中での遊び心の一端からと思われるが何でもありの貴族文化らしい発想である。でもよく見ると“なるほど”と思いますよ!



● 今年の24日は「上限の6.2夜で少し太い眉毛かな」

地蔵祭りは子どもの祭り?



□ 江戸時代に地蔵様は“亡くなった我が子を地獄の苦しみから救ってくださる”との信仰が宗派を問わず定着し、赤いよだれかけは「私の子は、このよだれかけの匂いのする子です」との親の願いが込められていると言われている。(賽の河原の石積み)

☞ 江戸時代の子供は5歳頃までにほぼ半数が亡くなっているので「地蔵祭り=子どもの祭り」との思いが強かったのでしょうか。



地蔵祭りとちょうちん

◀昔は自家製の個人用提灯▶

□ 地蔵祭りに提灯を飾るようになったのは“明かりの入った提灯や行燈には菩薩が宿り救いの光を放っている”との信仰が広まった江戸時代からであるが宮中では平安時代からとの説もある。

☞ 江戸時代は提灯が高価なため家々で手作りの提灯(男は白・女は赤)に願いを書いて毎年使用していた。亡くなった人の提灯は翌年の地蔵祭りにもう一度飾った後、お墓に供えていたのでその慣習が形を変えて今日まで残っているのでしょう。

お囃子

豆知識=お囃子(祭具)について簡単に触れてみましょう。(曲については後日)

♪ 太鼓は心霊宿る大木で作られており神との交信具(迎え・語り・送る)

◀お囃子・案内明かりの若竹と十二灯▶

♪ 若竹には神聖な力が宿っており、特に空洞部分には神が宿ると信じられていた。

☞ 現代でも竹は門松・七夕・地鎮祭等の必需品である。「かぐや姫」も竹から?

♪ 「十二灯」は12個すべての提灯に菩薩が宿り参拝者への救済パワーを放つ光明と言われている。12個については仏教の教え;苦悩を滅ぼし悟りを開く十二の条件「十二因縁」からだそうである。地蔵尊の錫杖のリングも6or12個が多い。



若竹

横山